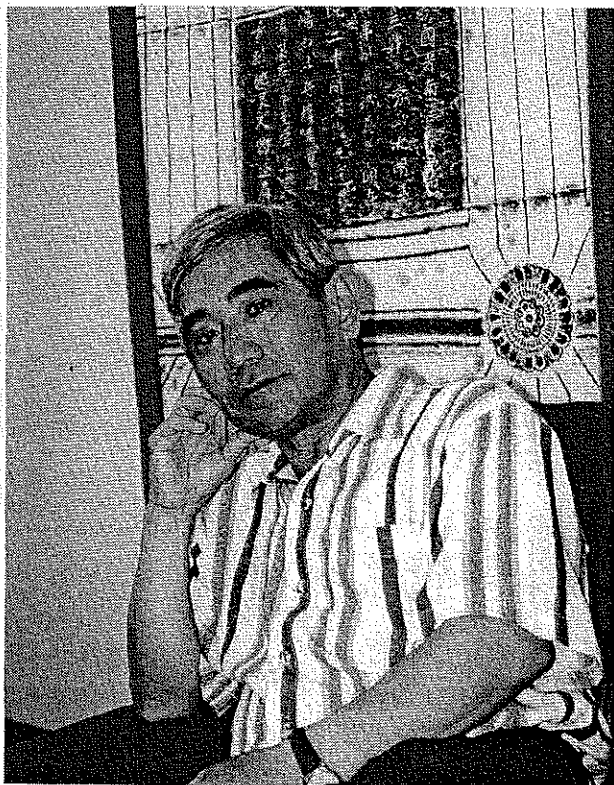


教養の源泉としての博物館 - 館長 大城 将保 -

学校では「総合学習」への取り組みがはじまり、地域では「生涯学習」への対応が強調される時代である。明治以来の暗記中心や詰め込み教育の弊害が噴出して、昨今の最高学府の学生たちは教養が欠如していると批判される始末である。この世紀末は日本の教育が根底から変革を迫られる時期にあるとあってよい。社会教育の一翼をになってきた博物館もまた自己変革が迫られている。宝物



や珍品を陳列して来客を待たばよいという姿勢では時代から取り残される。学校教育と社会教育を線引きして、それぞれの小さな縄張りに閉じこもっているわけにはいかない。

高度に成長した情報社会のなかを生き残るために、世界的な規模で博物館のあり方が模索されているのである。「生涯学習時代のニーズに応える博物館」「情報の発信源となる博物館」「五感に訴える参加型・体験型の博物館」など、さまざまなキーワードで新しい博物館像の構築に取り組んでいる。

わが館も目下新博物館の建設事業の中で新しい理念を模索している最中である。建設作業そのものは県の財政事情でここ2、3年足踏み状態であるが、博物館づくりの作業が中断しているわけではない。新博物館の展示内容はどうか、学校教育との連携の方法、教育普及部門の拡大強化、情報通信部門の開拓など開館までに取り組まなければならない課題は山積しているのである。建築が遅れていることをいいことに館職員が昼寝をしているようでは時代から取り残されたウサギになってしまう。

博物館は、それこそ県民市民の教養の源泉地でなければならない。もちろん博物館はあくまで源泉の一つであって、博物館に来れば「教養」が山ほどあります、などと言ってはそれこそ教養を欠いたバナナの叩き売りになってしまう。ただ、これだけは言えると思うが、どうだろう。「博物館を知らない人を、われわれは心から“教養人”と呼ぶ自信があるだろうか？」

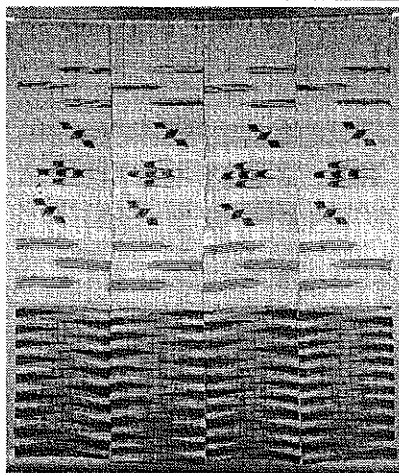
企画展「日本の技～伝統のかたち～」

第7回日本の伝統美と技の世界 重要無形文化財保持団体秀作展

わが国には、古くから優れた工芸技術が数多く伝えられており、世界に高い評価を得ています。その工芸技術を継承している重要無形文化財保持団体13団体で構成する「全国重要無形文化財保持団体協議会」の総会が今年は大宜味で行なわれます。それに伴い、保持団体の総合的な作品展が大宜味村と当館で開催されます。

大宜味村 会期：平成11年10月14日(木)～10月20日(水)

沖縄県立博物館 会期：平成11年10月26日(火)～11月7日(日)



芭蕉布四枚はぎのれん「つばめ乱れ餅」

特別展「三線のひろがり可能性」展



特別展終わる

特別展「三線のひろがり可能性」展は、平成11年8月3日(火)から9月5日(日)まで開催され、期間中9千人余の入場者があり、盛況裡のうちに終わりました。

この特別展は三線にまつわる諸資料を一堂にあつめ、三線の世界をたどり沖縄芸能の今後を考える内容で展開しました。

特別展準備中、三線「盛嶋開鐘」の胴内部に銘書が発見され、同三線の製作年代についての議論がかわされました。

特別展関連催事は、「名器を奏でる・三線の系譜をたどる」や「若人の芸能祭」、「三線鑑定会」と次々に開催し来館者の好評を博しました。

名器を奏でる・三線の系譜をたどる

444人の聴衆。この数字は、当博物館史上講堂の最大入場者数の一つに数えられます。この催事は三線愛好家にとって、必見、必聴の企画でした。クーラーの効きが悪く、大雨による高湿の下で、聴く方にも、演奏する方々にとっても決して良い条件ではありませんでしたが、物音ひとつしないすばらしい聴衆のマナーに支えられたことに感謝します。

県保持者4人の技によって、王府時代の開鐘など名器の重厚な音が復元されました。また、池宮正治琉大教授の「三線のきたみち」と題した基調講演に続き、比嘉悦子氏の進行で三線の系譜をたどる中国・琉球・奄美・本土地唄の三弦の4種類の比較演奏会では、楽器の形、奏法、音曲などを知る上でとても楽しい催しで、大変好評を博しました。



若人の芸能祭

8月22日(日)に、明日の沖縄の芸能を担う児童や生徒、学生による「若人の芸能祭」が開催されました。

当日は、県立南風原高等学校郷土文化コース、那覇市立安謝小学校三線クラブ、大里村立大里中学校三線クラス、若獅子隊(那覇市)、鼓衆若太陽(浦添市)、県立芸術大学音楽学部邦楽専攻の6団体が参加し、日頃の活動の成果を発揮しました。

出演者の母親から「発表の場を提供してくれてありがたい」との声が聞かれました。



三線鑑定会

去った8月29日(日)及び9月5日(日)の両日、琉球三線楽器保存育成会による三線鑑定会が開催されました。

鑑定希望者は、各家庭から自慢の三線を持参し、同会会員の鑑定を熱心に聞いていました。家宝として大切に保管されている三線は日頃お目にかかることができませんが、今回、184丁鑑定し、7丁の逸品がでてきました。



企画展「平成10年度新収藏品展」

新収藏品展は、前年度の4月から3月までの1年間に博物館へ寄贈された資料や購入、収集した資料を公開するものです。今年は、6月22日から7月18日の23日間開催しました。

平成10年度の収蔵資料は、寄贈・562点、購入・15点、収集・3点、移管・3点で、合計583点でした。このなかから寄贈していただいた48名の貴重な資料を中心に、約100点余りの資料を展示しました。

毎年多くの方から寄贈されますが、これらの資料は、展示や調査研究等に活用されます。



文化講座・夏休み親子文化講座

博物館では、2年前から文化講座に参加した受講者へ対し、アンケート調査を行っています。その意見を参考に講座を企画しています。今年も、みなさんの“声”を取り入れ、夏休み親子文化講座を含めた12講座を準備し、すでに上半期の7講座が終了しました。年々受講者も増え、熱心に耳をかたむけ、質問も頻繁に飛び交うなど沖縄の歴史、自然、文化に対して関心が高いことがうかがえます。



夏休み中は、一般向けの文化講座をお休みして、特別に親子で参加できる講座を設けています。

今年は「海の危険な生物」、「壺屋を見る・歩く」、「親子戦跡めぐり」の3講座を行いました。博物館を飛び出して屋外で行った講座では、子どもよりも熱心な母親がいたり、そうかと思うと実物を目の前にしたり、体験することで興味を示す子どもがいたりしました。普段講堂で行なわれる講座では気づかない、受講者の顔がみえました。



子ども体験学習教室

平成11年度の子ども体験学習教室は、「豆とサトウキビづくり」、「イノの生き物調べ」、「三線づくり」、「おじいちゃんとアンツクを作ろう」の4講座を計画しました。すでに、「イノの生き物」、「三線づくり」は、終了しました。

この体験教室は当館の展示内容である「沖縄の自然・歴史・文化」に即した内容で設定され、毎年新しい企画を取り入れながら実施しています。



子ども体験学習教室は、第2・第4の学校休業日を中心に開催しています。

「三線づくり」は、特別展「三線のひろがり可能性」展との関連もあり、講座の最終日あたる終了式には、博物館のホールで、受講生が自ら作った三線を用いて、演奏会を行いました。また、特別展の最終日までの期間、受講生の三線も展示されました。

ボランティア養成講座

歴史、自然、民俗、美術工芸の各分野の学芸員による、合計8回のボランティア養成講座が終了しました。今年は、40名の方がボランティアとして登録しました。受講生の1人は、去年10月に沖縄に転居してきたばかりで、「大城館長の歴史研究と分析は分かり易く、疑問に思っていた事が一つ一つ解け、よく理解できた。また、宮城先生の三線で、全員で歌ったことも楽しい体験だった。」と話していました。

移動博物館

沖縄県立博物館では、博物館の利用に不便を感じておられる地域の方々に、博物館活動の一端に触れていただくため昭和54年度から「移動博物館」を実施してまいりました。平成11年度は24回目の開催にあたり、上野村村営体育館において、平成11年11月19日(金)～21日(日)の3日間開催いたします。また、宮古の自然、文化に関する講座も予定しております。



博物館シアター

県立博物館では、生涯学習の場として県民のみなさんが気軽に足を運び、博物館を十分に利用していただくため、博物館シアターを平成6年度より、実施しております。今年度は、現代中国映画の世界Ⅱとして、「王さんの憂鬱な秋」、「女人、四十。」を、夏休み親子シアターとして「ジャックと豆の木」、「白雪姫」を上映いたしました。

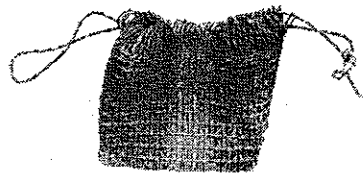
なつかしの名作として12月19日(日)に、「道」を上映する予定です。



「道」より

子ども体験学習教室のお知らせ

12月25日、2月12日、2月26日の三回にわたって「おじいちゃんとアンツクを作ろう」を開催します。対象は小学校4年生から高校生、一般までとし、40名の定員となっております。皆さんの参加をお待ちしております。



文化講座

博物館では、10月以降も様々な文化講座を企画しております。

10月30日(土)

「工芸技術の継承」

講師：上江洲敏夫(具志川市史編さん室長)

12月18日(土)

「南部の遺跡めぐり」

講師：大城慧(県立博物館学芸課長)

1月15日(土)

「野鳥観察会」

講師：与那城義春(県立博物館学芸員)

2月19日(土)

「歴史の道を歩く」

講師：萩尾俊章(県教育庁文化課文化財係長)

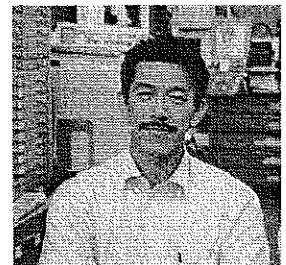
3月18日(土)

「アジアの美術館事情」

講師：前田比呂也(県文化国際局文化振興課主査)

新職員の紹介

4月から新職員として、大城館長とともに、県教育庁文化課から園原謙が、萩尾俊章(県教育庁文化課へ)に代わり歴史担当として配属されました。



	【交通案内】 —那覇空港発— 125番(知花線)「桃原」バス下車、徒歩10分 102番(空港着天間線)「当蔵」バス下車、徒歩3分	沖縄県立博物館だより No.42 発行年月日：平成11年10月 編集・発行：沖縄県立博物館 住所：〒903-0823 那覇市首里大中町1-1 TEL 098-884-2243 FAX 098-886-4353
	—市内バス— 1番(首里線) 12番(末吉線) 17番(石嶺開南線)の「首里城公園入口」、または「当蔵」バス下車、徒歩3分 13番	—市外バス— 46番(糸満西原線)「当蔵」バス下車、徒歩3分 25番(石川) 97番(琉大線)の「桃原」バス下車、徒歩10分